

GR学部教員が選ぶ GR学部 1年生向け推薦図書

✦ 学部全体向け

タイトル	Globalization: A Basic Text, 2d Edition	推薦者	伊藤 玄吾(ヨーロッパコース)
		著者	George Ritzer, Paul Dean
出版社	Wiley-Blackwell	出版年	2015年
コメント	グローバリゼーションという漠然とした対象について、整理して考えていくためのヒントが書かれている。これを読んで自分が興味を持ったセクションについてさらに参考文献を読み進めると良いだろう。自分の漠然とした関心にいくらか「かたち」を与えていきかけにはなるかと思われる。		

タイトル	Readings in Globalization: Key Concepts and Major Debates	推薦者	伊藤 玄吾(ヨーロッパコース)
		著者	George Ritzer, Zeynep Atalay
出版社	Wiley-Blackwell	出版年	2010年
コメント	上で推薦した本の副読本。上の本で扱われたそれぞれのテーマに関する学術的著書や論文の抜粋からなっている。内容的にも多様で、アカデミックな英語を読む練習にもなる。		

タイトル	自分のなかに歴史をよむ(ちくま文庫)	推薦者	小野 文生(ヨーロッパコース)
		著者	阿部 謹也
出版社	筑摩書房	出版年	2007年
コメント	言わずと知れたドイツ中世史の泰斗、社会史ブームの仕掛け人であり、それ以上に、たんなる歴史家に収まらない「文人」であった。大学入学後に学問上の師である上原専禄とどのような交流をしたか、研究者になるまでにいかなる魂の遍歴があったかといったお話は、新入生の皆さんにとって参考になるはず。そうした自伝的要素という経糸と、ドイツ中世民衆の心性の歴史という緯糸で織り上げられたこの珠玉の作品は、歴史的存在として自己を理解し、自身の足元から世界を考えてゆくためのたしかな縁となるにちがいない。		

タイトル	新装版 苦海浄土——わが水俣病	推薦者	小野 文生(ヨーロッパコース)
		著者	石牟礼 道子
出版社	講談社	出版年	2004年
コメント	水俣病は終わっていない。水俣病は遠い話ではない。〈いま・ここ〉にある水俣病に向き合えない者が、英語を身につけ海外に目を向けても結果はたかが知れている。大切なのは、〈いま・ここ〉にある世界性を看取る目を養うこと。魂の詩人・石牟礼道子の代表作にして、近代日本文学の達成。日本近代の光と影は、ここにすべて含まれている。若い感受性をもっているうちに、ぜひ触れてほしい。全集版などいろいろな版があり、どれを手にとっても構わない。		

タイトル	思想の落とし穴(岩波人文書セレクション版)	推薦者	小野 文生(ヨーロッパコース)
		著者	鶴見 俊輔
出版社	岩波書店	出版年	2011年
コメント	戦後を代表する思想家・鶴見俊輔の、主に1980年代に書かれた作品をまとめたもの。さまざまな顔を持つこの思想家の思想を要約することはむずかしいが、軽やかにどのようなひととも対話する開かれたバランス感覚、いかなる領域にも入り込んでいく無限の好奇心、そして自分の感覚を決して手放さない日常性の思想は、研究領域やコースの別を問わず、ぜひ学んでほしい。特に「思想のたる詰め」について論じた冒頭の「昭和精神史」は、今こそ読まれるべき一文である。興味を抱いたら、『鶴見俊輔集』(筑摩書房)へ進むのもいい。		

タイトル	交易する人間(ホモ・コムニカンス)——贈与と交換の人間学(講談社選書メチエ)	推薦者	小野 文生(ヨーロッパコース)
		著者	今村 仁司
出版社	講談社	出版年	2000年
コメント	人間は、自然、人間、事物それぞれと特有の「交易」をおこなっている。雨や太陽や風を求め、供儀を捧げ、神に祈り、人と会話し、人の手の暖かさを求め、プレゼントをし、動物とじゃれ合い、お金を払い、食べ物を分け合う……。人間こそは、コミュニケーション的存在、「ホモ・コムニカンス」である。贈与と交換という二つの概念に沿って社会学、経済学、神学、人類学、教育学、政治学などを縦横に渡り歩き、人間社会の根源にある「何か」をあぶりだそうとする秀逸な作品。スケールの大きさを学び取りながら、社会思想研究の醍醐味を味わってほしい。		

タイトル	我と汝・対話 新装版	推薦者	小野 文生(ヨーロッパコース)
		著者	マルティン・ブーバー (田口 義弘 訳)
出版社	みすず書房	出版年	2014年
コメント	世界の成り立ちや人間の在り様をすべて、呼びかけと応答という「対話的關係」としてとらえる。〈我-汝〉という応答関係と、〈我-それ〉という応答関係を区別し、両者の二重の係りにありつつも、〈汝〉との出会いを希求することのうちに人間の生きざまを見いだす。聖書に深く裏づけられた思想でありつつ、他方で伝統的な西欧思想への対案を示そうとする、20世紀宗教思想の金字塔。他者や世界を自己利益のまなざしで断片化し、対象化し、利用しようとする在り方から脱して、人間はいかにほんとうに他者と出会うのか。このブーバーの問いかけは、哲学や宗教のみならず、政治学、心理療法、医学、教育学、芸術学、社会学など多様な領域で重く受け取られ続けている。推薦者(小野)自身、みなさんと同じ年頃にこの書物と出会って世界の見方がガラリと変わり、その後の人生にとって決定的な意味をもった書物である。岩波文庫版もある。		

タイトル	ジャガイモのきた道——文明、飢饉、戦争 (岩波新書)	推薦者	二村 太郎(アメリカコース)
		著者	山本 紀夫
出版社	岩波書店	出版年	2008 年
コメント	我々に身近なジャガイモが世界でどのように栽培され、伝播していったかを説明する、わかりやすい書籍です。		

タイトル	納豆の起源(NHK ブックス)	推薦者	二村 太郎(アメリカコース)
		著者	横山 智
出版社	NHK 出版	出版年	2014 年
コメント	我々に身近な納豆が東南アジアを起源としてどのように伝播・加工が進んでいったか、世界の多様な納豆の姿を知る良書です。フィールドワーク論としても読むことができます。		

タイトル	国際関係キーワード——明日の福祉国際社会のために(有斐閣双書)	推薦者	Aysun UYAR (アジア・太平洋コース)
		著者	初瀬 龍平、平野 健一郎、黒沢 満、馬場 伸也、鈴木 実
出版社	有斐閣	出版年	1997 年
コメント	20 世紀における国際社会を理解するために国際関係論のキーワードを簡単に説明する本である。グローバル・システム、国家、地域と、個人レベルの国際社会システムについて国際関係論における様々なコンセプトを理解できる。少し古い本だが、国際関係論の入門として必要であるコンセプトを分かりやすく説明するよいまとめである。		

タイトル	新版 グローバリゼーション	推薦者	Aysun UYAR (アジア・太平洋コース)
		著者	スティーガー マンフレッド・B(櫻井 公人、櫻井 純理、高嶋 正晴 訳)
出版社	岩波書店	出版年	2010 年
コメント	グローバリゼーションについて有名な本である、「Globalization: A Very Short Introduction (Manfred B. Steger)」の和訳である。グローバリゼーションについて社会科学の各学問から理解できる簡単な説明をしながら、最新版の和訳として、グローバル社会における新しい事例も含まれている。国際関係論、政治学、経済学および社会学の視点からのグローバリゼーションに関して簡単に理解できる。		

タイトル	はじめての政治学(平凡社新書)	推薦者	Aysun UYAR (アジア・太平洋コース)
		著者	牧野 雅彦
出版社	平凡社	出版年	2003 年
コメント	本学部の学際的なアプローチに合わせて、政治学の視点も理解しなければならない。その目的に向けて、初めて出会う「政治」、「政治体制」と「政治学」について理解できる本である。個人生活の中で出会う「政治」と国や地域における政治体制とその特徴、および政治学における問題の解決方法について理解できる入門の本である。		

